

〔感染症発生動向調査企画委員会情報〕

1 月報

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ： 報告数は7,023件（前月比7.6, 前年比3.6）。昨年10月から連続して増加しています。前月比は7.6であり、12月から1月にかけて大きく増加しました。前年比は3.6であり、昨年よりは高い値となっています。平成26/27年は1月、平成27/28年は2月がピークでした。今後さらに増加する可能性が高いと推測され、注意が必要です。

小児科定点

（全体傾向）

報告数は11,023件（前月比1.56, 前年比1.68）であり、インフルエンザ7,023件と感染性胃腸炎2,595件が大きく占めています。前月比、前年比はともに増加しており、インフルエンザ7,023件（前月比7.6, 前年比3.6）の影響を大きく受けています。一方、先月まで連続して増加していた感染性胃腸炎は2,595件（前月比0.7, 前年比1.0）と今月は減少に転じています。水痘は予防接種の定期接種後に一旦減少しましたが、再び増加してきているので注意が必要です。

（疾患別傾向）

1. RSウイルス感染症： 報告数は87件（前月比0.3, 前年比0.2）と前月より大きく減少しています。又、例年に比べて低い値となっています。今後は例年と同様に収束していくものと推測されます。八代(6.3)、人吉(5.0)が多くなっています。
2. 咽頭結膜熱： 報告数は78件（前月比0.5, 前年比0.9）と前月より大きく減少しました。平成27年、平成28年はいずれも12月がピークとなっていました。菊池(8.0)が多くなっています。
3. A群溶連菌咽頭炎： 報告数は297件（前月比0.6, 前年比0.8）。前月より大きく減少しました。平成27年、平成28年はいずれも12月がピークとなっていました。菊池(11.8)が特に多くなっています。
4. 感染性胃腸炎： 2,595件（前月比0.7, 前年比1.0）でした。昨年9月から連続して増加していましたが、1月からは減少に転じました。前年比は1.0であり、例年並で推移しているようです。今後は例年と同様に春から夏にかけて減少していくものと推測されます。山鹿(130.5)が特に多くなっています。
5. 水痘： 報告数は166件（前月比0.8, 前年比2.8）でした。前月からはやや減少していますが、昨年の8月以降は連続して前年より高い値で推移しています。3才未満での発生が58例、34.9%を占めており、1才になったら早期に予防接種を受けるように強く勧奨する必要があると考えられます。菊池(8.4)、有明(5.2)、宇城(4.5)が多くなっています。
6. 手足口病： 報告数は149件（前月比0.4, 前年比7.5）でした。11月をピークとして連続して減少していますが、未だに昨年よりは著明に大きな値となっています。菊池(5.2)、天草(4.8)、熊本(4.6)が多くなっています。
7. 伝染性紅斑： 報告数は10件（前月比0.8, 前年比0.02）でした。前年比0.02と昨年の同時期に比べると大きく減少しています。昨年の9月以降は毎月20名以下の発生で推移しています。
8. 突発性発疹： 報告数は130件（前月比0.9, 前年比1.1）と大きな変化はありません。例年と同様に推移しているようです。

9. 百日咳 : 報告数は0件（前月比-、前年比-）でした。今月の発生はありませんでした。例年と同様に低い値で推移しています。
10. ヘルパンギーナ : 報告数は65件（前月比0.5、前年比4.6）でした。前年度よりは高い値で推移していますが、11月より連続して減少しており、今後は例年並みに推移するものと推測されます。天草(6.0)、菊池(5.2)が多いようです。
11. 流行性耳下腺炎 : 報告数は210件（前月比0.6、前年比0.7）と前月比、前年比は減少していますが、未だに一昨年よりは高い値となっていますので、今後の発生に注意が必要です。八代(13.5)が特に高くなっています。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 : 報告数 20 歳台に 1 件(前月比 0.2、前年同月-)、熊本からの報告です。
2. 流行性角結膜炎 : 報告数 58 件(前月比 0.5、前年同月 0.5)と前月比、前年比ともに半減しています。熊本 50 件、菊池 3 件、有明 5 件の報告です。年齢別では 20~39 歳にピークがあり約 40%を占めていますが、乳幼児期及び 60 歳以上の高年齢層にも発症が目立ちます。インフルエンザが大きな流行をしている時期には流行性角結膜炎の報告数は少なくなる傾向が見られます。人の流れが変わることが一因と考えられます。

STD定点

※平成 25 年 1 月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が 13 医療機関から 16 医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症 :
報告数50件（前月比1.1、前年比1.5）で、前月比、前年比とも増加しています。男女別は、男性に27件と多く見られています。年齢別は、男性では15~29歳に16件と多く、女性は15~29歳に18件と多く見られています。地区別は、熊本が35件と圧倒的に多く、次いで御船6件、有明4件、八代3件、菊池、宇城各1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症 :
報告数17件（前月比0.6、前年比1.3）で前月比では減少、前年比は増加しています。男女別は、女性に10件と多く見られています。年齢別は、男性は15~70歳以上、女性も20~70歳以上と幅広く見られています。地区別は、熊本が10件と多く、次いで八代3件、宇城2件、菊池、御船に各1件でした。
3. 尖圭コンジローマ : 報告数 7 件（前月比 2.3、前年比 2.3）で、前月比、前年比とも増加しています。男女別は、男性に 6 件と多く見られました。年齢別は、男性は 15~64 歳と幅広くみられ、女性は 20~24 歳に 1 件見られました。地区別は、熊本 5 件、有明、宇城に各 1 件でした。
4. 淋菌感染症 : 報告数22件（前月比1.2、前年比1.4）で、前月比、前年比とも増加しています。男女別は、男性が18件と多く見られました。年齢別は、男性は15~39歳に15件と多く、女性は15~29歳に見られました。地区別は、熊本12件と多く、八代、宇城に各4件、有明に2件でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：

報告数21件（前月比 1.0、前年同月比 1.0）でした。八代、人吉が各4件とやや多く、小児は0歳1件のみ。70歳以上は9件（43%）と通常より少なく、45～69歳が9件（43%）と多くなっています。

2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：

報告数5件（前月比 1.3、前年同月比 0.7）でした。小児例はなく、70歳以上4件でした。

3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告数0件（前月、前年同月から増減なし）でした。

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎：

報告数1件（前月比 1.0、前年同月比 1.0）でした。熊本から70歳以上1件でした。

2. 無菌性髄膜炎：

報告数0件（前月 -4、前年同月 -4）でした。減少し久しぶりの報告なしです。

3. マイコプラズマ肺炎：

報告数26件（前月比 0.5、前年同月比 1.0）でした。地域は水俣（11件）が引き続き多くなっています。年齢は1～14歳で85%を占めています。0歳は報告なし。前月よりは減少していますが報告が著増した昨年と同様の高い件数です。

4. クラミジア肺炎：

報告数0件（前月 -1、前年同月 -2）でした。

5. 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）：

報告数5件（前月 +5、前年同月比 0.2）でした。すべて熊本からの報告で0歳2件、1～9歳で2件です。今後増加してくる可能性があります。要注意です。

届け出対象感染症

1類感染症：報告はありませんでした。

2類感染症：結核：28件

3類感染症：報告はありませんでした。

4類感染症：報告はありませんでした。

5類感染症：アメーバ赤痢：2件

クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)：1件

侵襲性肺炎球菌感染症：2件

梅毒：1件